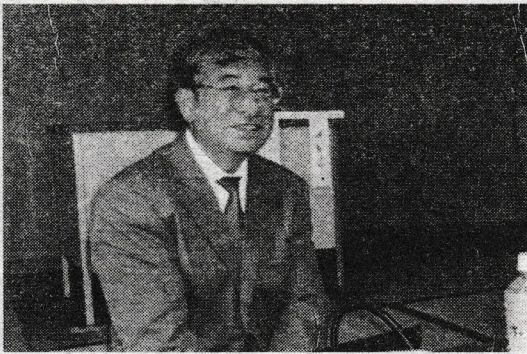


第五十回連翹忌俳句会

「昭和の日」の四月二十九日高村光太郎、智恵子夫妻を偲ぶ連翹忌俳句会が、城山公園不老庵で開催、思雲吟社が主催、二本松観光協会、福島中央新報社の後援で行われた。

心配された昨日の雨も上り、すっかり新緑となった不老庵に、地元はじめ、郡山福島の愛好者が集り作品を発表した。本年は数えて五十回、益永孝元（桔槔）先生

特別選者に招いての句会で披露のあと特選には



を特別選者に招いての句会で披露のあと特選には

蓮翹の部 野里安のり

五十一年棲めば古里蓮翹忌

紫に暮るる安達太良蓮翹忌

愛の詩碑あり雨あがる蓮翹忌

嘱目の部 益永 孝元

戒石銘に尾もて諾ふ燕かな

戸田 英一

が選ばれ、懇切な句評と丁寧なご指導があり、この後互選による入選句は

蓮翹の部 山家 菊子

天 言葉は空のあをより蓮翹忌

紫に暮るる安達太良蓮翹忌

天 復興の空が膨らむ鯉のぼり 関 喜一郎
 地 ひとひらの花発掘の土器に散る 山家 菊子
 人 笠松の整枝なだらか昭和の日 渡辺三三子
 賞品が授与された。

蓮翹の部 山家 菊子
 山荘の文机の光沢蓮翹忌 戸田 英一
 智恵子偲び湖畔の乙女木の芽風 中川 恭子
 蓮翹のこの道愛の散歩道 古宮 寿子
 仕事なくも生きるが仕事蓮翹忌 遠藤 蕉魚
 蓮翹一枝柩に添えし別れかな 渡辺三三子
 蓮翹や迷ひし老ひのひとあゆみ 佐藤江津子
 天に満つ蓮翹の黄の迫りくる 山家 菊子
 雲間より尋羅が出迎うれんぎよう忌 吉田 茂登
 蓮翹や我家県立高校前 佐久間はん

五十回文字の魅力に蓮翹忌 関 喜一郎
 阿多多羅の空蓮翹に飴して 坂本 豊
 蓮翹の奔放天空埋めつくす 山家 菊子
 蓮翹や岩手の人の寡黙なり 野里安のり
 蓮翹の明るさにあてなほ淋し 渡辺三三子
 帛省子の土産に蓮翹一枝添え 丹野 栄
 蓮翹の中やさみしい耳連れ 佐藤 弘子
 柀に酒あふるるほどに蓮翹忌 益永 孝元
 蓮翹忌陸奥といふ陰日向 坂本 豊

要介護明日は我が身か蓮翹忌 関 喜一郎
 れんぎようもレモンもイエロー詩哀し 吉田 茂登
 蓮翹の垣目印の新婚家 丹野 栄

シャリシャリと紙切つて蟹蓮翹忌 佐藤 吾一
 嘱目の部 坂本 豊
 たんぼの円居空きゆく仮設棟 坂本 豊
 芯立つる笠松雨の上がりを 益永 孝元
 開け放つ城山茶室風光る 渡辺三三子
 松の芯誇りを永久に少年隊 佐藤江津子
 葉桜や城の雪洞たゆたゆと 橋本かず子
 見つからぬ方位磁石や鳥曇 佐藤 弘子
 葉桜の下走り行く子らの列 古宮 寿子
 緑さす雨すぶ濡れの自刃の碑 佐藤 吾一
 フクシマの児等幸きくませ 八重桜 丹野 栄
 春深し疊敷なる不老庵 野里安のり
 石割りて出て来し顔が松の 関 喜一郎

風薫る茶席ゆるゆるの洗心亭 古宮 寿子
 若葉光樹下の二人の碑にこぼれ 橋本かず子
 桜蕊踏みて城山人まばら 中川 恭子
 女坂経て愛の詩碑花もみぢ 益永 孝元
 後歩きなれど種時き帰還の人 坂本 豊
 城山の土手になだるる雪柳 山家 菊子
 雨傘を杖とも恃む木の芽坂 吉田 茂登
 雨あがる句友を迎すみどりの日 佐久間はん
 此処に彼の少年散るや雪柳 丹野 栄
 火の国の行方や桜蕊が降る 佐藤 弘子
 水ぬるみゆつたり浮かぶ真鯉の背 遠藤 蕉魚
 訛声は心平蛙かも知れず 佐藤 吾一

大平 市
 新入学生児や氏子の安全祈られた。氏子連の心のよりど

揃うクマガイソウ

大平 市
 新入学生児や氏子の安全祈られた。氏子連の心のよりど

大平 市
 新入学生児や氏子の安全祈られた。氏子連の心のよりど